

伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 (①修03-07-2/5)

目 的

各文化財修復材料について製造法・適用法などを調査研究し、適正な文化財修復を行うための基礎を築くことを目的とする。伝統的修復材料に関しては、製法・使用技法・材料物性などを研究することにより、伝統技術を記録し、その有効性を科学的に検証する。一方、近年文化財修復に使用されるようになった合成樹脂に関して、その使用事例を再確認する。さらに、これらの調査や研究から得られた結果をもとに、現在の環境も踏まえ、より文化財修復に適した技術や材料を開発することを目的とする。

概 要

伝統的修復材料に関して、調査研究を行った。具体的には、建造物などに使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験を開始した。また、紙に関しては、収集した試料の繊維組成分析を行い、適切な紙を選ぶための基礎データを集積した。古糊に関しては引き剥がし試験をもとに各工房の使用状況について評価した。

また、本年より、本研究所が携わった修復事業のうち研究所が所蔵する資料を分類整理し、目録を作成し始めた。また、ネガフィルムなどの資料に関しては、デジタルデータ化も進めた。

「漆芸品に用いられた金属の劣化」というテーマで第1回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催した。

日時：2008（平成20）年2月27日 13：00～17：00

会場：東京文化財研究所地階セミナー室

講演：北野信彦（東京文化財研究所）、高橋隆博（関西大学）、北村昭斎（漆芸品修復技術者：重要無形文化財保持者）、成瀬正和（宮内庁正倉院事務所）、佐野千絵（東京文化財研究所）

学会、研究会等での発表 2件

- ・北野信彦「出土資料である漆芸品に用いられた金属の劣化と保存処理」第1回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会「漆芸品に用いられた金属の劣化」東京文化財研究所 08.2.27（他1件）

学術雑誌などへの掲載論文等 2件

- ・Noriko Hayakawa, Rika Kigawa, Tomoyuki Nishimoto, Kurara Sakamoto, Shigeharu Fukuda, Takayuki Kimishima, Yasuhiro, and Wataru Kawanobe Characterization of furunori (aged paste) and preparation of a saccharide similar to furunori, *Studies in Conservation*, 52(3), pp.221-232, IIC, 07.10（他1件）

報告書 1件

- ・『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2007年度』東京文化財研究所 90p 08.3

研究組織

○川野邊渉、北野信彦、早川典子、加藤雅人、坪倉早智子（以上、保存修復科学センター）、舘川修、小宮山健二（以上、客員研究員）